

都市化の波は道路や橋と共に

明治 30 年代、鳥飼村で「メリヤス工場」が何軒か建ち始めました。これが摂津市域における工場の初めです。大きな工場は、昭和 5 年の「大阪セルロイド加工」(南別府町)を初めとして、昭和 11 年の「日本ヴルツウィスラー絹糸」(現カネカ、鳥飼西)、昭和 16 年の「大阪金属工業」(現ダイキン、西一津屋)など、やはり南部から起こりました。

都市化は北部が先行します。それは鉄道と駅(昭和 3 年、正雀駅・昭和 13 年、千里丘駅)および産業道路(大阪高槻京都線、昭和 11 年開通)が出来たことによります。

昭和 30 年代の高度経済成長期に入ると、住宅や商店も次々と建ち、急速で全面的な都市化と人口急増が始まります。この時期は新しい道路や橋がどんどん造られていった時期でもあります。

なお、三島町が誕生したのは昭和 31 年、摂津市が誕生したのは昭和 41 年です。

木造の鳥飼大橋建設工事

防空道路の延長として戦争中に架設が始まったが、完成したのは戦後の昭和 21 年



鳥飼大橋料金徴収所

昭和 29 年に鉄製の橋となり、日本最初の有料橋となった



鳥飼村の救急車

トラックが病人・医者・看護婦を運んだ(昭和 25 年)



昔の鶴野橋 南方向を見る。看板の向こうは三島町役場



旧の宮鳥橋





市道正雀一津屋線（昭和30年）

道路は未舗装。生駒山まで見通せる。
下の写真は現在の同じ場所（正雀二丁目バス停）から同じ方向を見たもの



産業道路（大阪高槻京都線）千里丘付近（昭和15年）
昭和10年に完成した道路の両側に建物が建ち始めている



大阪金属工業（現ダイキン）
工事始まる（昭和14年）

正雀駅前
（昭和18年）



中央環状線起工
式（昭和38年）
現在の市役所付近で



思い出語り

これまでの亀岡街道に替わる産業道路の工事が始まったとき、その広さに驚きました。完成してもしばらくは店も何もないガランとした道路で、自転車の稽古によい場所でした。

軍隊の命令で鳥飼大橋の工事に参加していました。朝鮮人労働者もたくさんいました。みんなで2、3百人くらいでした。ところがアメリカの戦闘機が毎日のように攻撃に来るのです。30機ほどが、大阪湾の方から淀川の水面すれすれに飛んできて、橋ぎりぎりの所で機関銃をバリバリッと撃って、急上昇して帰るのです。この時、アメリカ兵の顔が見えるのです。生きたここちがしませんでした。

正雀駅が出来て周りに家が建ち始めると、駅前に料理屋やカフェなど歓楽街のようなものが出来ました。風呂屋も出来て遠くからも人が来るようになりました。

